

自分の態度を振り返ろう その2

「ありがとう」と言える人に！

今回は「ありがとう！」「ありがとうございます！」という感謝の言葉について振り返ってみたいと思います。

先日の工場見学（高岡市）で会社の方から紙コップに飲み物を入れてもらい渡された際に、「ありがとうございます。」とお礼を言えた児童が少なかったということがありました。この件だけでなく、地域の方々を迎えての活動においても、自ら「ありがとうございます。」と言える児童が少ないことがこれまでもありました。児童にとってこれらのことは、してもらって当たり前という感覚なのでしょう。実際、受け身の場面が多いために「感謝する」という相手意識が希薄になっているように思えます。

そこで学校では、困っているときに友だちから優しい声をかけてもらったら「ありがとう」。ノートやプリントを渡してもらったときにも「ありがとう」。何かしてもらったら「ありがとう」と言える人になろうと、形からではありませんが取組を始め、自分を見つめ直す時間の道徳や学活などを通してその意味を考え、実践できるように指導しています。

しかし、これは学校教育だけで実践できるものではありません。家庭での実践も大事になってきます。「ありがとう」といえる場面は日常にたくさんあります。「ありがとう」という言葉を言ってもらうだけで心が温かくなります。そういう経験が子どもたちの心を優しくします。また、たくさんのごことに感謝すればするほど、子どもたち自身の心が豊かになってきます。そのためには、まずは大人から手本を示すことが大切です。家庭での保護者の皆さんの実践が子どもたちの心を動かします。学校と家庭の連携で子どもたちを育てていきましょう。



**感謝する言葉「ありがとう」は、社会に出たときの基本でもあります。
人前に出ても恥ずかしくない礼儀正しい三井っ子を育てていきたいと考えています。**

★がんばる三井っ子



*「新聞を読んで」感想文コンクール（北國新聞社）

- ・佳作 5年 坂出 船「輪島ぬりの伝統を受け継いで」
- ・学校賞 輪島市立三井小学校

*石川県「親子の手紙」

- ・優良賞 3年 正武田 大悟

*「税についての作品」書道の部

- ・銅賞 6年 山下 裕己

*県児童硬筆書写作品コンクール

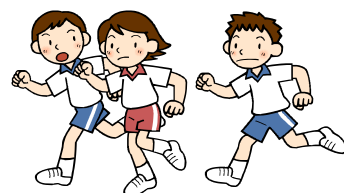
- ・特選 5年 上野 和孝 入選 2年 細川 雪乃

*北國こども俳壇（11月27日版）

- ・秀作 1年 海津 颯星「かまきりが ねらったえものを つかまえた」
- ・佳作 1年 福島 結生 5年 上野 和孝 5年 堀下 綺那

*マラソン大会（10月7日）1位

- ・1年 端 統司
- ・2年 前田 和輝
- ・3年 小森 優奈
- ・4年 細川 大地
- ・5年 坂出 船
- ・6年 端 愛一郎



優秀学校賞 ～「新聞を読んで(感想文コンクール)」～

夏休みの「新聞を読んで(感想文コンクール)」の取組で、昨年度に引き続き2年連続で「優秀学校賞」を受賞しました。この取組では、自分の考えや思いを表現する力の向上と社会を見る目を養うことなどをめざしています。昨年以上に内容に深まりが見られました。初めての1年生も1年生なりにがんばって書くことができました。副賞として子どもたちがとても興味を持ちそうな図鑑や事典、物語などの図書一式が贈呈されました。



インターネット安心講座 11月4日(金)

「情報モラル」について穴水町 ICT 支援員の堀井美香さんに講演していただきました。今回は地域の方の参加もあり、学校・家庭・地域社会が連携していくことが必要だと感じました。「スマホや通信ゲーム等は使い方次第で凶器にもなり、包丁を与えているようなものです。」という言葉が印象的でした。与えっぱなしにせず日頃からお子さんとのコミュニケーションをしっかりと取り、保護者として情報管理をしていくことが必要であることを学びました。



ゲストティーチャーにお迎えし 授業参観 11月4日(金)

5・6年生の道徳の授業に東京から三井町に移住された山本亮さんをゲストティーチャーとしてお迎えしました。生まれたときからこの地に住んでいる子どもたちは、三井町の良さをあまりわかっていないようです。そこで、自分たちの土地を愛する心を育てることをねらいとして山本さんに三井町の魅力・良さについて話していただきました。子どもたちにとって改めて三井町の良さを知り、ふりかえる貴重な時間になりました。



中越パルプ工業・工場見学 11月18日(金)

森林環境を保全するために努力している企業の高岡市の中越パルプ工業へまるやま学習でもお世話になっている萩野さんをはじめとする地域の方々と一緒に見学に行きました。大きなチップの山を見たり紙を巻いた大きなロール紙を見て、みんな驚いていました。この工場は今、『竹』を利用した紙づくりにも挑戦しています。竹は、チップ加工等、木材に比べて効率が悪く、現在、日本の製紙会社ではほとんど扱われていません。そんな竹ですが、放置された竹林を消費するため、地域貢献の一環として挑戦しているそうです。会社の努力を改めて知ることができました。

見学後、全員が感想を述べ、質問もほとんどの児童が手を挙げるほど積極的に学習できました。後日、全児童の御礼の手紙を送りました。

